

町医者だより

平成27年05月号

喘息のスマートな治療

〈発行・お問合せ先〉

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

ヤソポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

数年前から喘息の吸入薬のひとつのシムビコートでユニークな使用法が認可されました。喘息の悪化時の治療を含めて全てを単体の吸入剤で行うため単体吸入治療(single-inhaler therapy: Sit)と言われたり維持療法と発作時に使用するリリーバとしての治療も単体で行うためその英語の頭文字をとってスマート治療(Single combination budesonide-formoterol inhaler Maintenance And Reliever Therapy : SMART)といわれています。

英国の権威ある雑誌ランセットに掲載された論文は必見の価値がある

スマート療法は普段は一日2回、1回何吸入と定期的な吸入(維持療法)を行い、息苦しさの悪化など喘息の調子が悪くなれば(発作発現時)何吸入か追加していくというものです。以前からこの町医者だよりも書いていますが、薬効評価に関する論文は、製薬会社が資金提供しているものが多く、大部分は自社薬剤の効能を絶賛する論文しか世の中に出できません。2013年のランセットの姉妹誌に掲載された論文(Patel M Lancet Respir Med 2013)は自主研究で製薬会社の圧力を受けておらず一読の価値があります。スマート療法群と維持療法として行う定期的な吸入に喘息悪化時にサルタノール(メプチンと同種)吸入(短時間作用型気管支拡張剤)を行う群で比較検討しています。論文によると、吸入ステロイド量はスマート療法群で確かに多くなるが、喘息が悪化したときに使用する内服ステロイドの量を加えたステロイドの総量は両群で差がなく、しかも喘息の悪化のエピソードがスマート療法群の方がかなり減ることが示されています。この論文は、喘息治療法の新たな戦法を示しています。すなわち、喘息の悪化が起こる際に吸入を増加できると良いということです。

スマート療法の実際

スマート療法はシムビコートのみ認められています。シムビコートの薬剤情報を見ると「通常、成人には、維持療法として1回1吸入を1日2回吸入投与する。症状に応じて増減するが、維持療法としての1日の最高量は1回4吸入1日2回(合計8吸入)までとする。維持療法として1回1吸入あるいは2吸入を1日2回投与している患者は、発作発現時に本剤の頓用吸入を追加で行うことができる。本剤を維持療法に加えて頓用吸入する場合は、発作発現時に1吸入する。数分経過しても発作が持続する場合には、さらに追加で1吸入する。必要に応じてこれを繰り返すが、1回の発作発現につき、最大6吸入までとする。維持療法と頓用吸入を合計した本剤の1日の最高量は、通常8吸入までとするが、一時的に1日合計12吸入まで」となっています。一日2吸入から12吸入まで吸入量を変動することができます。この治療はまだ認可されていませんが、フルティフォームという吸入薬でも応用可能だと思われます(アドエアやレルベアではだめです)。シムビコートの用量ですが、先のランセットの論文をみると海外でのスマート療法の実態が実は見えてきます。それによれば維持療法で使用する吸入量はメーカーが推奨する1日4吸入で、スマート療法でも2吸入追加の一日6吸入です。つまりこれ以上吸入量が必要な場合は、他剤を併用しているということです。あとはスマート療法の費用の問題です。費用対効果の分析はどうなっているのでしょうか。日本の先生の中で8吸入とか12吸入とか使用しているとしたら、患者さんの金銭的な負担を全く考えていないこととなります。